

日本語会話パートナーのためのビデオクリップ集 「ボランティア日本語教師 こんな先生いませんか？」

倉品さやか・竹内明弘

国際大学

要旨

国際大学の日本語プログラムでは、ボランティアで日本語の会話の相手をしている日本人や、まだ経験の浅い日本語教師などに向けて、教育活動気付きや自己啓発を促すために、教室活動に従事する教師を、「良い先生対悪い先生」として対比させたビデオクリップを作成し、これを広く世間一般に活用してもらうために YouTube に載せている。

キーワード： ボランティア、日本語教育、教室活動、ビデオクリップ、YouTube

0. はじめに

国際大学の日本語プログラム(以下JLP)が提供する日本語のコースは全レベルで、ほぼ一週または2週に一回程度ボランティアの日本語母語話者をクラスに招き、会話パートナーとして教師の指示の下で様々な教室活動¹⁾に参加をしてもらっており、この取り組みは10年以上続いている。

そして、この活動を続けていく中で、教師からの指示や課題に込められた意図から逸脱してしまうボランティアに対する何らかのトレーニングと新規の日本人ボランティアが参加し始める前のトレーニングの必要性が生じてきた。それでその解決策として2003年にJLPは「いい教師」と「悪い教師」を対比させたビデオクリップを作成した。これは前者に向けてのインサービストレーニングとして、また後者に向けての事前のトレーニングの一環として使うことを目的としたものであった。ビデオでは、「悪い先生」の事例として、経験の浅い日本語教師が自分で気付かず陥りがちな、望ましくない教師行動を、「いい先生」の事例として課題の意図を理解していて、学習者に対して教育的に望ましい行動をとっている教師をそれぞれ撮影したそれらのビデオをAVIファイルでサーバーに保存をして、JLPはトレーニングに活用してきたが、2009年までイントラネット環境での使用にとどまっており、使用する機会も年に多くても数回程度であった。

さて、インターネットは常に発達し続けているが、中でもオンラインの音声動画ファイルの閲覧サービスのYouTube²⁾は、利用するのが無料で簡便なことから、投稿者と視聴者の規模が極めて大きい。そこで、JLPは過去に作成したビデオ資産の再活用と、大学の社会に対する貢献の目的を兼ねて、編集しなおしたビデオをYouTubeに投稿し、幅広く日本語教育に何らかの形で従事している様々なレベルの教師に閲覧してもらうことにした。用途は自己研鑽のためや、教師トレーニングでの使用を主に念頭においているが、コメント機能もあることからビデオ作製者であるJL

Pへのフィードバックも期待している。

本論では最初に 2003 年に撮影したビデオ集の目的と意図などの仕様を説明し、次に 2010 年の YouTube 投稿に向けて編集したビデオ集とそれに関する様々な技術面について解説する。

1. 2003 年撮影のビデオ集について

以下に各ビデオクリップの概要を事例1から6までにまとめたものを記す。各事例の作成意図、練習した課題、ビデオクリップのセリフは付録を参照されたい。

事例1(よい事例と悪い事例を組み合わせ YouTube にアップロード済 詳細は 2. を参照)

よい事例1: 辛抱強く待って、学生に答えさせる。

悪い事例1: 我慢しきれず、教師が答えを言ってしまう。

事例2(よい事例と悪い事例を組み合わせ YouTube にアップロード済 詳細は 2. を参照)

よい事例2: きちんと課題学生に言い直させ、リピートさせる。

悪い事例2: 課題を忘れて自由会話に脱線してしまう。

事例3

よい事例3: 比較的自然なスピードで会話する。

悪い事例3: 極端なフォリナートークを使い、学生を子供扱い。

事例4

よい事例4: 既習/未習項目をコントロールして、課題に専念し、学生に練習させる。

悪い事例4: 課題から脱線し、学生を英会話の相手にしてしまう。

事例5

よい事例5: 学習者に最後まで発話させ、間違いは学生に訂正するように仕向けている。

悪い事例5: 課題から脱線し、一方的に自由会話をしてしまう。

事例6

よい事例6: 学習者の目を見てきちんと練習する。

悪い事例6: 下ばかり見ていて、学習者の間違いを見過ごす

2. 2010 年の編集について

2.1 ワークショップの内容

JLP が 2003 年に撮影したビデオには、各事例に G(いい例)と B(悪い例)がある。会話パートナーのトレーニングを目的とした JLP のワークショップでは、このビデオのうち、いくつかの事例を選び、ワ

ークショップ参加者に見せている。その後、どこが悪いのか、どうすればいいのか等について話し合い、ビデオのポイントとなる部分を再度見せている。

2.2 YouTube とワークショップの違い

2010 年の編集は広く世間一般に活用してもらうために YouTube に載せるために行った。YouTube と JLP で行っているワークショップとの違いは、以下の3点であると考えた。(表1)

表1 YouTube とワークショップの違い

	YouTube	ワークショップ
対象者	世界中のあらゆる人	申し込みをした人
やりとり	一方向	双方向
素材	音声を含む映像のみ	ビデオ、配布資料、口頭での説明、話し合い等

ワークショップでは事前に参加者の背景をある程度知ることができる。そのため、どの程度日本語教育の練習に慣れているか、JLP での練習に参加したことがあるか、それぞれの課題の意図が分かっているか、あるいは外国人の会話パートナーをした経験が全くないのかどうかということ参考にして、ワークショップの中で補足説明を適宜している。一方、YouTube では世界中の人が見る可能性があるため、日本語教育の経験や会話パートナーとしての経験が様々であることが想定される。経験があつて課題の意図などが分かる人はその部分を早送りやスキップなどができると考え、初心者に向けての説明を加えた。

また、ワークショップにおいてビデオは事例を示すためのものであり、講師が使う資料の一つである。上述された各事例の意図を参加者に理解してもらうために、講師はビデオだけでなく、ワークシートや担当講師の口頭での解説、参加者同士の話し合い等を用いる。一方、YouTube は、一方向であり、映像だけである。YouTube に他の視聴者との話し合いという活動を含むことは難しいが、ワークシートや解説は、文字や音声で加えることができると考えた。また、話し合いはできなくても、視聴者がただ見るのではなく、自分で考えられるように構成を工夫した。

以上、YouTube に載せるにあたり、編集で留意した点は下の3点である。

- a. 対象者を広く想定する
- b. 映像だけで伝わるようにする
- c. 視聴者が考えながら見られるようにする

2.3 各事例の構成

留意点をもとに、次のように編集をした。最初に学習者で行う課題を示すが、その際、「a. 対象者を広く想定」し、例を含め動画で使われる練習すべてを文字で示し、期待される正答も提示した。「b. 映像だけで伝わるようにする」ため、ワークショップで行った講師の解説部分やポイントのまとめなどを文字と音声を使い加えた。「いい例」「悪い例」をそのまま流した後に解説をする、あるいは、例を区切

りながら解説を入れていくのではなく、「c. 視聴者が考えながら見られるようにする」ため、課題を与え、考えながら例を見てもらい、その後、ポイント箇所ですりながら答えとなるような情報を示すという流れにした。

各事例の構成は、以下の通りである。

- (1) a. タイトル(文字)
- b. 課題の説明(文字と音声):学習者と教師が行う課題の内容を例とともに示す。
- c. 視聴者への課題(文字と音声)
- d. 悪い例 1 回目(動画):ビデオを最後まで通して見せる
- e. 悪い例 2 回目(動画と文字):悪い部分がよく出ているところの直後ですり、文字情報で悪い例を示す。(平均2～3箇所)
- f. ポイント整理(文字と音声):悪い例に複数含まれていた悪い部分を解説とともに整理する。
- g. 視聴者への課題(文字)
- h. いい例 1 回目(動画):ビデオを最後まで通して見せる
- i. いい例 2 回目(動画と文字):いい部分がよく出ているところの直後ですり、文字情報でいい点を示す。(平均2～3箇所)
- j. ポイント整理(文字と音声):悪い例のポイントも含めながら、この事例全体の意図を解説する。
- k. 作成者からのメッセージ(文字)
- l. クレジット(文字)

(1c)と(1h)が 2003 年に撮影したものであり、その他の部分が編集時に加えられた部分である。

2.4 編集の具体例:事例1

以下に具体例として事例1の内容を記述する。

(1a)' タイトル:先生良し悪しビデオ 事例1

(1b)' 課題の説明:これから行われる練習は、動詞を辞書形から意向形にして、「とっています」で終わる複文を作る練習です。

例:明日授業を 休む

↓

明日授業を 休もう とっています。 *1～3も同様に示す

(1c)' 視聴者への課題:それでは、これから日本語学習者と教師の練習を見ていただきます。

どこが悪いのか、考えながらご覧ください。

(1d)' 悪い例 1 回目

(1e)' 悪い例2回目:いかがでしたか?どこがどのようによくなかったのか、一緒に見ていきましょう。

*ビデオを最初のやり取りの直後止める。「学生の答えの途中で、答えを言

ってしまう」

*ビデオの続きを流し、次のやり取りの直後で止める。「すぐに正しい答えを
言ってしまう」

*ビデオの続きを流し、次のやり取りの直後で止める。「学生の答えの途中
で、答えを言ってしまう。」「正しい答えが一部しか示されていない」

(1f)' ポイント整理:1. せっかちな先生や沈黙が苦手だという先生もいると思いますが、考えながら
ゆっくり話す学習者もいます。学習者の発話を引き取って答えを教えるのでは
なく、学習者の答えを辛抱強く待ちましょう。

2. 正しい答えを単に言って終わりにするのではなく、正しい答えが苦も無く
言えるように復唱させるなどしましょう。

3. 正しい答えは、部分的に言うのではなく、完全な形で提示しましょう。

(1g)' 視聴者への課題:それでは、具体的にどのようにしたらいいのでしょうか。同じ課題を練習し
ている「いい例」があります。比べてご覧ください。

(1h)' いい例1回目

(1i)' いい例2回目:いかがでしたか?どこがどのように良かったのか、一緒に見ていきましょう。

*ビデオを最初のやり取りの直後止める。「答えがはっきりしないときは、
もう一度言わせる。」「正しいときは正しいことを明確に伝える。」

*ビデオの続きを流し、次のやり取りの直後で止める。「間違えたと
きは、すぐに正しい答えを言わず、もう一度考えるよう促す。」その
後、「正しい答えを示す。」

*ビデオの続きを流し、次のやり取りの直後で止める。「どこが間違
えているかを伝えながら、辛抱強く課題の達成へと導く。」(文字)

(1j)' ポイント整理:1. 学習者が間違えてもすぐに答えを出さず、もう一度挑戦させましょう。

2. 「違います」と言うだけでなく、どこが違うのか、どこまで正しいのかなどを伝
えながら、辛抱強く課題を達成させましょう。

3. 正しい答えが出たときは、そのことを明確に伝えましょう。何度か挑戦して
やっと正しい答えが出たときは、もう一度正しい答えをリピートさせてみるのも
いいでしょう。

(1k)' 作成者からのメッセージ:いかがでしたか?コメントお寄せください。

(1l)' クレジット:作成 国際大学 日本語プログラム www.iuj.ac.jp

このように事例1を編集後、YouTube にアップロードした。(参照
<http://www.youtube.com/watch?v=D6hKdtJbn5I>) 同様に事例2の編集も行い、アップロードした。
(事例2については <http://www.youtube.com/watch?v=-2d4CAwFpk4> を参照)

2.5 使用ソフト

編集に使用したソフトは、Windows ムービーメーカーである。これは、Windows Me/XP/Vista に搭載されているため、新しくソフトを買う必要がなく手軽に利用できた。機能や映像の効果等は有料で購入する編集ソフトに比べて限られてはいるが、その分、映像編集の初心者である筆者にも使いやすかった。

2.5.1 実際に行った編集作業

2003 年撮影のビデオファイルの他に、自分の声の音声ファイルは、IC レコーダーで録音し、「.wma」ファイルを作っておいた。Windows ムービーメーカーを用いて筆者が行った作業は以下の通りである。

- (2) a. 既存のビデオファイルを読み込む
- b. 新しく作った音声ファイルを読み込む
- c. 動画の不必要な部分を切り取る
- d. 動画を切り分ける
- e. 複数の動画を並べてつなげる
- f. 「ビデオ切り替え効果」を使って、動画と動画の間に切り替えを入れる
- g. 「タイトルまたはクレジットの作成」を使って、動画に文字を重ねて入れる
- h. 「タイトルまたはクレジットの作成」を使って、文字だけの動画を作る
- i. 「タイトルまたはクレジットの作成」を使って、最後のクレジットを作る
- j. ナレーションとして自分の声の音声ファイルを動画に重ねて入れる
- k. 編集終了時、「.wmv」形式で保存する

(2a)～(2k)の作業は、ムービーメーカーを開いてすぐ左側に表示されるタスクウィンドウに示された作業の一覧の中から選び、その後出てくる指示に従っただけである。事例1の作成時は、使い方や効果を1つ1つ試しながら編集をしたために時間がかかったが、事例2ではその時間が短縮され、操作もスムーズに行えた。

2.5.2 できなかったこと

このソフトを使う前に考えていた編集や映像のうち、実際にはできなかったことも幾つかあった。予定では、「(1b)課題の説明」で例を示す際、形を変換する部分をより分かりやすくするため、文字に下線や囲み線を加えたり、文字の色や大きさを自由に変えたりしたかったが、できなかった。また、「(1e)悪い例2回目」や「(1i)いい例2回目」で動画上に文字を入れているが、その文字を読みやすくすることができなかった。動画に吹き出しも入れたかったが、できなかった。これらについては、動画編集ソフト「Adobe Premiere Elements 8」を購入し、事例2から使用して改善した。

3. YouTube へのアップロードについて

3.1 アップロードの方法

筆者はYouTubeで動画を見る機会があったが、アップロードをしたことがなかった。これに関しても初心者であったが、YouTubeのホームページに出てくる指示に従って、比較的簡単にアップロードすることができた。その他、参考として、田口(2007)を使った。筆者の行った作業は以下の通りである。

(3) a. YouTubeで「マイアカウント」を作る:

ユーザー名、メールアドレス、パスワードなどが必要になるので、予め決めておくとよい。その他、国、生年月日、性別などを入力した。

b. 動画をアップロードする:

マイアカウント登録後、そのアカウントを使ってログインし、アップロード画面へいく。そこで、「動画をアップロード」をクリックし、アップロードしたいファイルを選択する。

ただし、アップロードできるファイルには制限がある。YouTube³によると、次の条件が書かれている。

- ・高解像度
- ・サイズは2GBまで
- ・長さは10分以下
- ・さまざまな形式⁴

さらに、アップロード画面では、動画について次の情報を入力する。

(4) a. タイトル

b. 説明: 動画の内容説明

c. タグ: 検索に使われるキーワード。複数入れることができる。

d. カテゴリ: リストから選択する。

e. プライバシー: 公開、限定公開、非公開から選択する。

アップロードが成功したかどうかを確かめるため、アップロードの完了後YouTubeを見てみたが、すぐにはアップロードされないようである。翌日には見ることができた。

3.2 アップロード後の反応

残念ながら、現時点⁵では期待していた視聴者からのレスポンスはない。動画にレスポンスするにはマイアカウントの登録が必要であり、筆者も動画を視聴するばかりでマイアカウントの登録をしていなかったことを考えるとレスポンスは期待できないかもしれない。

再生回数⁶は、事例1が166回、事例2が25回である。

4. 今後の予定

事例3以降も順次編集し、事例6までをアップロードする予定である。YouTubeにアップロードされる動画は多いので、その中で必要としている人や興味がある人が見つけやすくなるよう、タグや動画の説明を工夫していきたい。またレスポンスや視聴者からの感想が来ることを期待している。

参考文献

田口和裕(2007)「Chapter4 動画をアップロードしよう」『YouTube 完全攻略マニュアル』インプレスジャパン

注

¹ 例えば、学生が動詞を活用できるかどうかを確認したり、単文をつないで複文にしたり、決まったトピックの枠内で会話をしたりするなどの課題が中心。日本人をゲストとして迎えるビジターセッションではなく、日本語の練習相手と表現するのが最も妥当だと思われる。

² youtube: 2005 年から開始された、動画共有サイト サイト本体 <http://www.youtube.com/> youtube についての概説 <http://ja.wikipedia.org/wiki/YouTube> (2010 年 6 月 29 日時点)

³ http://upload.youtube.com/my_videos_upload (2010 年 6 月 27 日現在)

⁴ 筆者が事例 1 を作成した時は、田口(2007)を参照した。対応フォーマットが、「.wmv」,「.avi」,「.mov」,「.mpg」,「.flv」に限られていた(p.193)。

⁵ 2010 年 6 月 27 日時点

⁶ 事例 1 (<http://www.youtube.com/watch?v=D6hKdtJbn5I>) は 2010 年 4 月 8 日、事例 2 (<http://www.youtube.com/watch?v=-2d4CAwFpk4>) は 2010 年 5 月 27 日にアップロードした。それぞれの再生回数は 2010 年 6 月 27 日時点でのものである。

付録

事例 1

作成意図:「動詞を辞書形から意向形に直して、～と思っていますで終わる複文を作る」という課題の目的を理解して、学生の発話をモニターして、フィードバックすること。言わせっぱなしにしない。

課題

辞書形を意向形にして、「～と思っています」で終わる複文を作る。

例:明日授業を休む→ 明日授業を休もうと思っています。

i)寮へ10時までに帰る → 寮へ10時までに帰ろうと思っています。

ii)もっとスポーツををする → もっとスポーツをしようと思っています。

iii)新しいアパートへ引っ越す→ 新しいアパートへ引っ越そうと思っています。

事例1Gのポイント

よくモニターをして、間違いに留意して、辛抱強く学生に課題を達成させるようにしている。

日本人:じゃあ、文を直してくださいね。一番ですよ。寮へ10時までには帰る。

学習者:寮へ10時までにかえ、かえろう、と思っ、、、ています。

日本人:もう一度。

学習者:寮へ10時までにかえろうと思っています。

日本人:そう、帰ろうと思っています。じゃ、2番。

学習者:もっと、スポーツをする、、、

日本人:する?

学習者:スポーツをしようとおもっています。

日本人:そうそう。しようと思っています。はい、じゃあ3番

学習者:新しいアパートにひっこす、、、ひっこしよう、、、

日本人:もうちょっと、ひっこ、、、

学習者:ひっこしよう、

日本人:しよう、ん～

学習者:ひっこそうと

日本人:そうそうそう。ひっこそうと思っています。

学習者:ひっこそうと思っています。

日本人:そう。

事例1Bのポイント

学習者特有の考えながらゆっくりする発話に我慢できず、学生の発話を引き取ってしまっていて、学生の練習にはなっていない。

学習者:寮に10時までにか、かえ

日本人:帰ろうと思っています。はい、じゃ2番。

学習者:もっと、スポーツをすると思っています。

日本人:え～、しようと思っています。は、じゃあ3番

学習者:新しいアパートにひっこ、、、

日本人:そうと思っています。

1. 2. 事例 2

作成意図:絵を見ながら先生の質問に答える形式で、plain style/short form/だ体の推測を表す「～と思います」といっしょに用いて複文を作る練習。質問するのは学習項目の～と思いますを引き出すためのきっかけであり、学習したばかりの言語形式に留意しつつ行わなければならない、後もう少しで、自由な会話へと発展できる段階ではあるが、完全な自由会話を目的としてはいない。

課題 以下のQに「常体+と思います」で答えさせる。

Q:何を読んでいると思いますか。 A:本を読んでいると思います。

Q:何をしていると思いますか。 A:テレビを見ていると思います。

Q:テレビを見ているのはどんな人だと思いますか。 A:子供だと思います。

事例2Gのポイント: 間違いに留意して、学生に言い直させて、リピートさせている。

日本人:何を読んでいると思いますか。

学習者:本を読みます。

日本人:本を読んでいると思います。

学習者:本を読んでいると思います。

日本人:もう一度リピートしてください。本を読んでいると思います。

学習者:本を読んでいると思います。

日本人:テレビを見ているのはどんな人だと思いますか。

学習者:こども。

日本人:こども、、、

学習者:こどもだと思います。

日本人:そうですね。こどもだと思います。はい、リピートしてください。こどもだと思います。

学習者:こどもだと思います。

事例2Bのポイント:間違いに留意せず、言語形式を引き出すためのという質問の意図が忘れられて、コミュニケーションを目的とした自由会話に流れてしまっている。

日本人:何を読んでいると思いますか。

学習者:本を読みます。

日本人:何をしていると思いますか。

学習者:テレビを見ると思います。

日本人:テレビを見ているのはどんな人だと思いますか。

学習者:こども。

1.3. 事例3

作成意図: フォリナートークのコントロール。話すスピード、二人称「あなた」の使い方、大人の語学学習初心者の取り扱い方。

課題: 学生の自己紹介に質問をする。

日本人:はじめまして。私は～です。どうぞよろしく。

おなまえは。

どこから、きましたか。

事例3Gのポイント:比較的自然なスピードを保っている。「～そう」など初級者には難しい表現を使っている点と2人称「あなた」の多用は語学教育に対する考え方により評価の別れる点である。

日本人:はじめまして、わたしはなかじまです。あなたは。

学習者:わたし、タンと申します。

日本人:あなたは、どこからきましたか。

学習者:わたし、ホンコンからまいりました。

日本人:あなたは、国際大学の学生ですか。

学習者:ええ、国際大学の学生です。

日本人:あなたは、どんな勉強をしていますか。

学習者:国際経営を勉強しております。

事例3Bのポイント:極端なフォリナートークと学生を子供扱いしている点。

日本人:はじめまして、わたしはたまるです。どうぞ、よろしく。

学習者:どうぞ、よろしく。

日本人:あなたのおなまえは。

学習者:わたくし、タンともうします。

日本人:どこからきましたか。

学習者:ホンコンからまいりました。

日本人:わあー、すごい。

1.4.事例4

作成意図:特定の意味を表す表現形式を学習者は一つ一つ学習していくのだが、同じ意味を表すさまざまな表現形式が使える母語話者は、意味とコミュニケーションに意識が集中したためか、無意識に未習の同意義表現を使ってしまい、学習者にとっては混乱の原因となることがある。意味と形式を結びつける練習では、その形式に集中して、学習者に練習をさせるように促す必要がある。

課題: 質問に対し、現実にもとづいて「～て～」と「～ないで、～」を使い分ける練習

Aは学習者の自由。

Q:今朝、朝ごはんを食べてきましたか。

A:、、、食べて／食べないできました。

Q: いつも、コーヒーに砂糖を入れて飲みますか。

A:、、、入れて／入れないで飲みます。

事例 4Gのポイント: 「～ないで、～」をコミュニケーションしたいという気持ちを抑えて練習に専念し、学生に言わせた。

日本人: タンさん。今朝朝ごはんを食べてきましたか。

学習者: はい、朝ごはんを食べてきました。

日本人: じゃ、いつも、コーヒーに砂糖を入れて飲みますか。

学習者: 砂糖を入れなくて飲みます。

日本人: そうですか。砂糖を入れなくて飲みますね。

事例 4Bのポイント: 「～ずに」を無意識に使っているのは、i) 新たな情報のさりげない提示になるか、ii) 習得の準備ができていないものにとっては混乱の原因となるかは見方が分かれるところであるが、その後の英語になっているのは、日本語の学習になっていない。

日本人: 今朝あさごはんを食べてきましたか。

学習者: はい、食べてきました。

日本人: はい、じゃ2番。タンさん、いつもコーヒーに砂糖を入れて飲みますか。

学習者: いいえ、砂糖を入れなくて飲みます。

日本人: あ、そう。私も入れずに飲むんですよ。ミルクも入れずに飲みますか。

学習者: あ、入れずには何ですか。

日本人: あ、「入れずに」知らない。入れずには **without putting milk. without putting sugar** かな。 Do you put sugar, do you use sugar?

1.5. 事例 5

作成意図: 初級後半や中級レベルでの自由会話に近い練習では、全くの自由会話と制限付きの会話とを混同しがちで、課題の本来の目的を忘れられないように注意を喚起する。

課題: 「～てくれる／～てあげる」を自由会話に近い形で使いこなす練習。

事例 5Gのポイント: 学習者に最後まで発話させて、きちんとモニターし、間違いは学生に訂正するように仕向けている。極めて自由会話に近い形で会話をしているが、課題から逸脱することなく、練習をしている。

日本人: タンさん、勉強が分からない時、友達は教えてくれますか。

学習者: はい。よく、教えてくれます。

日本人: ああ、そうですか。いいですね。何、どんな、何を教えてくれますか。

学習者:投資学の授業が難しくて、よく分かりません。
 日本人:ああ、
 学習者:友だち、教えてあげます。
 日本人:教えて、、、?
 学習者:ああ、教えてくれました。
 日本人:そうですか。他にどんな勉強を教えてくださいませんか。
 学習者:他には、あの、日本語ですね。
 日本人:あ、そうですか。
 学習者:あの、日本人の学生はよく、はい、教えてくれます。
 日本人:そう。じゃ、友だちが分からない時、タンさんはどうしますか。
 学習者:わたしも教えてあげます。
 日本人:ああ、そうですか。うん。

事例 5Bのポイント:学習者から「～てくれます」を引き出せず、「はい」で終わらせている。意味に引きずられて自由会話になってしまって、本来の課題の「～てくれる/～てあげる」の練習になっていない。また、一方的に話すことで学習者から発話の機会を奪っていて練習になっていない。

日本人:タンさん、勉強が分からない時、友達は教えてくれますか。
 学習者:はい。
 日本人:あの、勉強、どんな勉強が分からない?
 学習者:投資学の授業が難しくて、、、
 日本人:投資は僕もよくわからないな。投資学ってどんなことを勉強するんですか。
 学習者:あの、、、
 日本人:今、ちょうど、株価がね、、、。

1.6. 事例 6

作成意図:課題と指示があって、つい指示文書を目で追うだけになってしまいがちだが、日本語の練習はコミュニケーションのためで、相手を見ながら行いたいものである。

課題:現在形か過去形でなされる質問に時制に注意して応答する。

- i). 今朝何時に起きましたか。
- ii). 何を食べましたか。
- iii). 夜、寝る前に何をしますか。

事例 6Gのポイント: 学習者の発話をモニターし、また文書は最初に確認したら顔を上げて、

学習者と向き合っている。

教師: はい、じゃあこのアクティビティをしてください。

日本人: はい、じゃあタンさん、今朝何時に起きましたか。

学習者: ななじはんに起きました。

日本人: 何を食べましたか。

学習者: パンを食べました。

日本人: 夜寝る前に何をしますか。

学習者: テレビを見ます。

日本人: そうですか。

事例 6Bのポイント: 文書ばかり見て、学習者が時制を間違えているのに気付かず、訂正もしない。

日本人: んーと。え、質問。じゃ、あの、ね、朝、何時に起きましたか。

学習者: なな時半に起きます。

日本人: なな時半。んーと、じゃあ、何を食べましたか。

学習者: パンを食べました。

日本人: 夜寝る前に、何をしますか。

学習者: テレビを見ます。

日本人: できましたね。